

佳作

「日本の進むべき道」

―保育機関の発達について―

宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校2年

月 野 愛 弓

私の思う日本の進むべき道は保育機関を発達させることだ
と思う。保育機関を発達させることもっと多くの子供がよ
り充実した教育を受けることができる。

今日の保育園や幼稚園の待機児童数は四万人にものぼる。
こんなにも教育を受けられないでいる児童がいるのだ。では、
保育機関の発達として何をすべきだろうか。

第一に保育園、幼稚園の増設である。しかし、都会にはそ
のような場所がない。そこで私は土地を有効活用すべきだと
思う。高層ビルやマンションが立ち並ぶのであれば、その一
階やオフィス内に保育所を設ければよいのではないだろうか。
自宅内や自分の勤めているオフィス内なら、母親も安心して
子供を預けることが出来ると思う。

第二に保育士、幼稚園教諭の育成である。保育機関を増設
するならば、当然指導者も増やさねばならない。そこで、私
は「保育教諭」という資格を作ればよいのではないかと思う。

今までは保育士と幼稚園教諭では仕事の質や量が違い、幼稚
園と保育所と分けてきた。しかし二つを一体化させることで
幼稚園、保育園、それぞれの認可が必要なく、運営しやすく
なり、教育と保育が一緒に出来る認定保育園の設立にも繋が
る。保育園が属する厚生労働省と幼稚園が属する文部省、各
省に今一度保育機関の見直しをしてほしい。

また、知的障がい児や身体障がい児の対応もできるように短
期大学、大学の教育学部で専門知識も学べるようにするとよ
いと思う。少しでも知識があれば、気になる子がいた際に即
座に対応することができる。それはその児童の成長に良い影
響を与えるはずである。

ほかにも考えてほしいのは地方ごとの保育者の採用の工夫
だ。例を挙げると東北地方である。東日本大震災の後、被災
した事業所の再開など様々な要因で女性が働かなくてはいけ
なくなっている。東北地方は早急に託児所を設けるべきであ
る。その際に、被災した子供のケアができるような心理的サ
ポートの専門知識のある人材がいるとよい。東北地方はその
ような人を積極的に募集すべきだと思う。このようにその地
方の保育の実態、保育者が取得している資格を十分に考慮し
なければならぬ。多くの資格を持つ保育者を大勢必要とし
ている。

第三の取り組みとして税金が挙げられる。保育園や幼稚園

には公立と私立法人があり、公立は税金で賄われている。公立の保育機関に夜間保育をする、という手立がある。昼間使用している保育施設を夜間でも運営するのだ。夜遅くまで仕事のある家庭や少しでも保育指導を受けたい家庭には利便性があると思う。また、公立保育機関を増設することで待機児童を少しでも減少させることが出来る。国会議員の汚職や無駄使いが騒がれている今こそ、税金の使い道を考えてほしい。

子育てと仕事を両立できる環境を国を挙げて整えれば、女性の社会進出もより力強いものとなる。保育機関が発達することで女性の社会進出、絵本業界、遊具や玩具業者の発達にも結びつく。様々な事柄が枝分かれして繋がり、日本に大きなメリットが生まれると思う。なによりも家で兄弟や両親と遊んでいた子供が多くの子供と触れ合い、保育機関でたくさん体験をすることはとても良いことだ。次の未来を担う存在である子供を大事に、かつ現代の社会のためにも日本は子供の教育に熱を入れるべきだ。日本の保育・教育機関の発達が進み、その次世代によって日本がどうなっていくのか、とても楽しみだ。